

2006.4.18 貞松院のシダレザクラと日本酒を楽しむ会

幻想的に咲き誇る400年の歴史をある「和の空間」で、諏訪の5酒造の醸す芳醇な日本酒を楽しむ会。琴の音色につつまれた会場は訪れた人々の心を魅了した

迎冬山 貞松院 月仙寺
浄土宗の寺で、もともと片羽にあった慈雲院という天台宗の寺院が文禄2年(1593年)浄土宗に改修し現在地に創設された。正保2年(1645年)2代藩主忠恒が生母貞松院殿の遺志により再興して菩提寺とし、寺号も貞松院の法名からとって改めた。宝永3年(1706年)に5代将軍綱吉が松平忠輝の供養料として伊那郡三日町のうち30石を寄進したので、諏訪唯一の御朱印寺となった。



貞松院のシダレザクラ(市指定史跡)

2代藩主忠恒が大阪城勤務の帰路、苗を持ち帰り、並木として植えたものとの寺伝がある桜で、目通りの幹周は367cmあり、市内で2番目に太いシダレザクラである。(写真をクリックすると大きくなります)

会の様子はこちら(写真をクリックすると大きくなります)



庫裏で宴



琴の音色



STAFF



ちとせリーダー



お見事1



古木の桜



ライトアップで演出



お見事

貞松院境内案内図



①松平忠輝公廟 (市指定史跡)



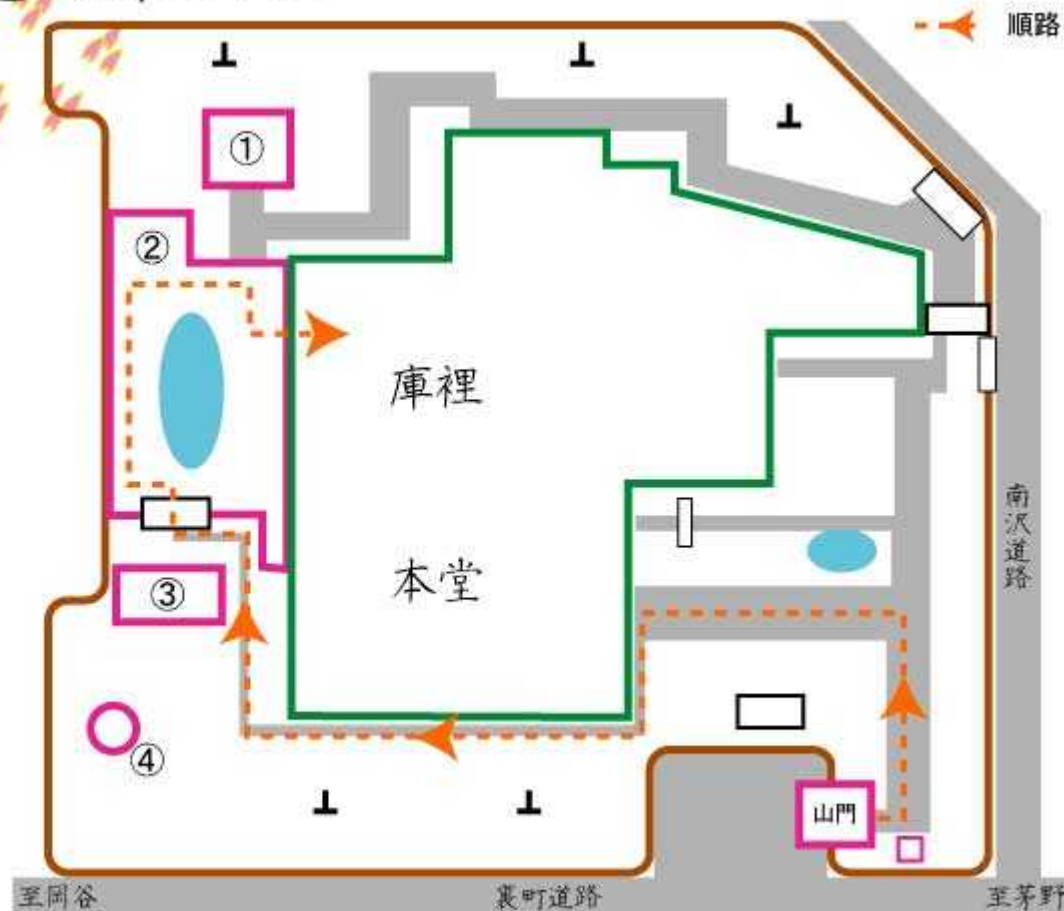
②シダレザクラ (市指定史跡)



③貞松院殿基壇 (市指定史跡)



④城洲き地蔵



日本酒を楽しむ会

@松平忠輝公墓地

徳川家康の六男で諏訪に配流された松平忠輝の墓地。墓碑は高さ124cmで、諏訪市神戸の沢から出たという花崗岩の自然石を用いている。その清楚さは「東に忠輝、西に光悦」たたえられる名簿碑である。松平忠輝公 徳川家康公6男。越後高田城城主となり60万石を領したが、大坂夏の陣に、遅参、蟄居改易により、武蔵国深谷、その後に上野国藤岡と移され、父である徳川家康の葬儀にも出席できず、さらに伊勢国朝熊に配流となる。そして飛騨国高山に移され、最後には信濃国の諏訪高島藩に移され、忠輝は58年間諏訪高島藩に配流の身となって天和3年(1683)7月3日92歳で没。大坂夏の陣に際しては、幼少時代に豊臣秀頼と親交があったと言われ、出陣途中の近江国守口にて徳川秀忠の旗本2人を斬り、さらに戦場(大和口)においても動かず、家康から叱責を受け、後に勘当される。諏訪に幽閉された松平忠輝は、周りが堀で囲まれた高島城の南之丸(現在の諏訪市役所駐車場)に置かれ、外部との接触が一切経たれませんでした。南之丸へ入るには2つの橋しかなく、その入口には侍番所と足軽番所があり、幽閉屋敷の周囲は柵で囲まれ、さらに間隔を置いて小さな番所を9箇所配置していました。幽閉屋敷は東西52間、南北24間半ほどでした。天和3年(1683)7月3日92歳で死亡。

A貞松院のシダレザクラ(市指定史跡)

2代藩主忠恒が大坂城勤務の帰路、苗を持ち帰り、並木として植えたものとの寺伝がある桜で、目通りの幹周は367cmあり、市内で2番目に太いシダレザクラである。

B貞松院殿墓地

初代藩主頼水夫人である貞松院の墓地。2代藩主忠恒によって建てられた。墓は方形造りで全高277cm塔身は間口奥行きともに108cm、高さ118cmで、それがひとつの石から刻み出されていて見事である。貞松院殿 徳川家康の家臣本田康重の娘で、徳川家康の計らいで天正11年(1583年)高島藩初代藩主諏訪頼水のもとへ輿入れした。本能寺の変以降の激変の中で諏訪家を支え、その基礎固めと安泰に大きな力となった。

C城向き地蔵

早くに亡くなった3代藩主忠晴の子どもを供養したという地蔵。両親を想うあまり、いくら向きを直しても次の日には両親のいる高島城の方向にひとりに向かってしまうという昔話が残っている。